

2012. 8. 12 (日)

森 芳 江

(1) 利用者の立場 ～体験を通して～

① 手書き要約筆記とPC要約筆記の違い

- * 要約筆記は元々手話の分からない人たちの要望からスタートしたのですが、PCのなかった時代は「要約」は当たり前でした。
- * 手書き要約筆記は有り難かったが限界を理解していたから、それ以上は望まなかった。
- * ITの時代になってPCにより手書き要約筆記の何倍もの情報が得られるようになりました。
- * 利用者のニーズは多様です。
- * 「要約」してポイントだけでいいという人
- * 話している内容の全文をのぞむ人
- * 原文がないと判断は難しい。だからこそ話したままの内容が知りたい。

② 連係方式と一人入力方式のちがい

① 連係方法→ 聞こえた通りにほぼ全文に近い表示ができる。

連係してやるので文字数は多い。(情報量が多い)

② 一人入力→手書き要約筆記に近い要約方式

- * 一人で入力するから当然ながら箇条書き的になることが多い。
- * 語尾も省かれてしまうので味気のない内容になってしまう可能性がある。
- * 連係入力と一人入力とでは内容的に差が出て来る。

③ 私が体験したPC文字通訳の現場

- * 最近、大会とか講演会には手話通訳とPC通訳が付くことが増えている。私は手話も大体理解できるので両方を交互にみます。(PCを見ている比率が大)
- * PC通訳の現場でびっくりするような場面に出会います。私だけが感じていることなのか？
- * 手話が分からない中途失聴者は当然ながらPC又は要約に頼っていると思うが、どのように思っているのだろうか？

④ 今後の方向性

- * 要約は手段であって目的ではない。「PC文字通訳」と「PC要約筆記」の違いをはっきりさせないと一般の人たちに誤解される。「PC要約筆記」と表示されると「要約」を正当化されてしまう可能性がでてきます。
- * 全難の報告書の中で高岡正氏の発言に「…文字入力などで聞いたままを入力する人達は音声文字に替えることが仕事であって、難聴者の人権全体を見る訓練は受けていない。ですから要約筆記者は難聴者の人権全体を見て音声を文字に伝える仕事をしている……」と。
- * 「要約筆記者」と「PC文字通訳者」の違いはなにか？
- * 要約したものを伝えることで人権が守られるのでしょうか？